

水先案内

水のこと、
もっと知りたい



目次

水と仕事シリーズ「アクアショップ」

水道局からのお知らせ

- 政令指定都市に向けて
【平成19年4月1日から事業所・営業所を統合します】
【平成19年4月1日から電話番号を一本化します】
- こんなときはどうするの？
- 平成19年度 水質検査計画についてお知らせします
- 「水質検査計画」お客様のご意見を反映します

水辺の風景

「福島潟」

引越しの準備はお早めに

水と共に生きる。
水と仕事シリーズ 第四回

「アクアショップ」

水の揺らぎの中に広がる水草の緑、気泡の輝き。そして宝石のようにきらめく銀鱗。「水中の庭園」が、水槽という限られた空間をどこまでも広く、立体的に見せていた。

アクアリウム——水槽内に熱帯魚や水草が生息する環境を作り出し、自然の生態系に似せた循環を再現するもの。長年にわたり根強い人気の趣味だが、癒しブームの後押しもあって、専門店の門戸を叩く初心者も後を絶たない。

「昔は熱帯魚を飼うというと、簡素な水槽にヒーターを入れただけのものが多かった。今でも飼育方法に差はありませんが、大きく様変わりしたのは楽しみ方。まずは、自分の好みの水草や熱帯魚、流木や石などを配して水槽に風景を作る。頭の中でアッサンしたイメージを水槽の中で表現する面白さ、それがアクアリウムの醍醐味ですね。でも、熱帯魚は生きているし、水草も生長するので放りっぱなしにはできません。そこで、手を入れる楽しみも生まれる。ガーアニングと似たような感覚かな。」

昨夏、新潟市内にアクアショップをオープンさせた若いオーナーも、そんな魅力に誘われたひとり。

熱帯魚、水草、流木や石などの素材、そして水。どれも欠けても成り立たない空間だが、別名「水草水槽」と呼ばれるだけに、主体は水草となる。色も形も、丈や葉の様子も違う水草を取り合わせ、生い茂る森林や、舵びさびの趣が漂う和風など、世界に一つだけの水景を作り出す。設置する部屋の雰囲気に合わせてレイアウトを変え、二つ三つと作り上げるアクアリストも多いという。

「ただ、水草と魚の相性があるんです。水草を食っちゃう魚もいるので（笑）」。

人の感性だけでは守れないルールもある。その難しさも、人を惹きつけているようだ。